

The Спасибо JOURNAL of MEDICINE

ARRIVED AT 8/25

AUGUST 28

vol. 3

カザフスタン活動記第4日目(8月28日)

～IPPNW2日目～

Masashi Kuriyama, Airi Kuruma, Kanako Yokoyama, Kazuya Maeda, Daiju Ueda

ABSTRACT

9:00-10:30	Plenary2 様々な暴力についてのセッション
11:00-12:30	Workshop 平和を軸に友達を作るワークショップ
13:30-15:00	Plenary 3 セミパラチンスクの核被害のセッション
15:30-17:00	Plenary 4 核の及ぼす様々な影響に対するセッション
19:00-22:00	Gala Dinner 市長主催によるディナーでした

Plenary2: by 來間 愛里



fig.1: ブース開催

朝の眠さを吹き飛ばすアメリカ人Dr.の楽しい司会で始まりました。この時間のテーマは“Violence”。核の話から離れて少し違う視点からの話となりました。世界では(特に発展途上国では)暴力が大きな問題です。暴力は自殺、他殺、いじめ、性的虐待などを含みます。この暴力をなくすためにどのような活動を行っているかを中心にプレゼンが行われました。特に私の印象に残っているのはフィリピンのDr. Jasmin N. Galaceのプレゼンです。彼女は女性の人権や平和、安全などを訴えてフィリピンでさまざまな活動をされているそうです。特に何の文章だったかを正確に覚えていないのですが...Genderについての項目をいれるように申し出て、それが通ったという話をしたときには会場から拍手が送られました。この時間には3人の女性の先生がお話になり、女性がたくさん活躍されていることに私はこっそり勇気をもらいました。今日は本当に報告のみとなってしまいました。明日の最終日も新たな学びに期待しています！

Workshop: by 栗山 政士

僕はroom3であった「平和を目指して世界を知り友達を作る6つの方法」というワークショップに参加した。内容としては、オーストリアの方々がザンビアでどのようにして暴力を減らさせる活動されているかと言ったものであった。参加者は10名ほどで、昨日の真鍋先生と木村先生のワークショップ如何に人気であったかがよく分かった。少人数のため、自己紹介があり、このワークショップを選んだ理由もみんなの前で言わなければならなかった。緊張したけど、良い経験であった。核のことだけでなく、もっと広く平和について話し合えて楽しかった。今日は世界中が仲良く暮らせる日が来ることを願いながらペンを置くことにしよう。2日目みなさんお疲れ様でした。



fig.2: みなさん勉強中

Plenary3: by 植田 大樹

何よりもこのセッションで感じたのは、熱気でした。熱気というのはセッションの終わった後の質疑応答で感じました。質疑応答にて観客からセミパラチンスク周辺の住民へのさらなる保障を求める内容をIPPNWの決議に入れるべきだということや、ロシアに対してカザフスタンへの保障をどう考えているかと言うこと、司会者に促され観客が壇上にてプレゼンをする姿も見られました。カザフスタン自国からの質問が多かったのですが、自国を思い発言する姿には感銘を受けました。医師が各国代表に対して直接発言していく、こんな会議こそがIPPNWなのか、と思わされるセッションでした。

もちろん、セッション内容自体であるセミパラチンスクというソ連の核実験場においての3世代にも及ぶ健康被害などのお話も興味深いもので、チェルノブイリもそうですが、日本の福島のこれからを聞いているようで、心苦しくなりました。



fig.3: 質問する眞鍋先生

Plenary4: by 横山 加奈子

今回の全体会議のテーマは"The Impact of the Nuclear Chain on Health, and the Environment, and Security"でした。月並みな報告になりますが、フランスに代表されるように、核の使用には軍用と「平和的」利用のダブルスタンダードがまだまだまかり通っているようです。核不拡散条約、NPT再検討会議の枠外で、パキスタンやインドに日本やオーストラリア、アメリカなどが、濃縮ウランの技術やウラン自体の輸出入が行われており、そこまでしっかり制限する必要があるという指摘でした。カザフスタンという土地も、1991年に核実験場の閉鎖を宣言しながらウランの採掘は続いているという矛盾をはらむ国です。今や核エネルギーは負の遺産そのものであるにもかかわらず、非核3原則を掲げる日本も、その技術を輸出している現実があります。核エネルギーの利用自体を制限しなければ意味がないことを痛感しました。IPPNW2日目。ようやく面白くなってきました。



fig.4: はだしのゲン贈呈

Booth: by 前田 和也



fig.5: パーティにて各国若手医師と

IPPNWでは恒例となったブース展示が2日目から始まり、続々と訪問者がありました。今回も折り鶴が好評で、片言の英語でおり方を教えると、皆さん苦戦しながらも見事に鶴を作られました。初めてとは思えないような上手な鶴を折る方や、毎日鶴を折っているという方もいました。千羽鶴について聞かれるなどを通して交流も深まりました。

また「9条の会」のシールが大好評。「9条の会」のシールを張った人が会場に続々出現！もちろん、憲法9条が戦争を放棄し武力を持たないと決めた平和条項だということも知ってもらえました。原爆パネルや「少年兵が見たヒロシマ」など、ヒロシマ・ナガサキの実態を知ってもらう事もでき、ブースの役割を実感する1日でした。

Gala Dinner: by 前田 和也

2日目はアスタナ市と市長主催のディナーがありました。民族音楽の歓迎で始まったパーティはどんどん盛り上がり、ついにはダンスパーティとなりました。もちろん、PANWメンバーも踊りの輪に加わり、会場は一体感であふれました。

若手中心に参加者との交流も深まりました。ロシア語版「はだしのゲン」を今回の大会会長であるAbay Baigenzhin氏（IPPNWカザフ支部）に贈呈しました。また、若手医師はIPPNWの若手医師や学生との交流、さらには世界各国から参加している医学生や若手医師との交流を行いました。別れを惜しみながら帰路につく夜となりました。



fig.6: ホテルに戻ってから